

〔学 会〕

東京女子医科大学々会 第113回例会抄録

日 時 昭和37年4月27日(金)午後2時～5時
場 所 東京女子医科大学本部講堂

1. マイトマイシン使用により著効を奏した慢性骨髄性白血病の1例

(小児科)○伊村 和子・山崎香栄子
3才4カ月の慢性骨髄性白血病の女兒に、マイトマイシンCを投与し、著効を奏し、治療後1年余にわたる現在、正常状態を保っているためその臨床所見、経過および治療について報告した。

2. 陳旧性精神分裂病の病像について

(精神神経科)赤田 豊治
精神分裂病と一口に言われるが、それらの疾患群は一つの疾病単位であるかどうか、その病像はどの範囲のものを含み、その診断基準は何に求められるか等未解決の多くの問題が残されている。演者は自験の古い分裂病患者の中から3例を挙げ、その病像を主として自我意識の面から観察し考究して、問題解明の為の一つの手がかりとしたいと思う。3例とも発病以来数年を経たかなり古い例であるが、話しかけに対してかなりよく応じ、言語も比較的明瞭であり、また一方発病初期の分裂病体験は殆ど、或いは全く消失した状態であるから、一見して粗大な末期的症状を認めない。意識内容を窺うに比較的便宜な症例であろう。またかかる症例の分裂病性欠陥はどのような心理的構造のものであるかに興味を抱かれるゆえんである。症例1は自らの逃走事件を殆ど何の感情もまじえず恰も他人事のように回想し、症例2は自らを「自然現象と同じです」と表現、症例3は自らをしきりに「本人」と呼ぶというように、いずれも自分自身に対し自分が第三者であるかのような表現が見られた。これは自我意識が極めて稀薄であることの一つの現われと観られる。そしてかかる意識はそれのみを論ずるべきものではなく、患者の生の在り方全体、世界の生命から個の生命が隔絶(L. Klages)した結果、精神(Geist)がその拠り所を失った様相が自我意識の面にあらわれたものと解すべきである。

3. 〔症例検討会〕 腫瘍癩癩の1例

(司会)千谷 七郎

全文本誌掲載予定。

4. 映画 最新心臓直視下手術(説明)榊原 任
5. 〔綜説〕 性ホルモンの使用、ことに産婦人科以外の領域における利用について

(産婦人科)川上 博

性ホルモンは触媒的作用によって体内で行なわれる諸種の物質代謝と密接な関係を持っていますが、それを効果的に働かすには一定期間内ある濃度で作用さす必要があります。

その目的には毎日内服によって適当量を与えることが最も便利ですが、性ホルモンは経口投与致しますと肝に運ばれて肝で破壊されますので、肝を避けるために口腔内粘膜から吸収させるようにパッカルの形で与える方法と、多少とも構造式を変えて肝臓でも破壊されない形に合成したりして使用されています。また性ホルモンの遊離型のを鉛筆芯の大きさに圧縮したものをペレットとして皮下や筋膜下に埋没していますが、その融解速度がまちまちで充分目的を達することができませんので、緩慢な溶解を目的に性ホルモンを高級脂肪酸でエステル化したものを使用しています。これがデポウで1回の注射で2週間位の効果があります。

性ホルモンは性器に作用するほかに、テストステロンは強い蛋白同化作用、筋肉や内臓の肥大作用があります。負の平衡のN代謝に対してテストステロンを注射しますと蛋白同化作用が強いため正のN代謝とします。蛋白異化作用の強い者に与えますと効果的であります。重病疾病の快復期などに効果的であります。

性ホルモンは腎、心、肝を肥大せしめる作用がありますが、ことに腎に対する肥大作用が強く、ネフローゼに対して極めて効果的に作用します。

その他心筋硬塞後の患者、過コレステロール血症、糖尿病、末梢循環障害等にも効果的に作用致します。

前立腺肥大に対しては去勢後卵胞ホルモンを投与致しますと効果的であります。

(全文本誌32巻7号に掲載した)